【様式1】
令和６年度　授業改善推進プラン

東久留米市立小山小学校　第４学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 （数値等で具体的に示す）	具体的な授業改善策及び目標値 （数値等で具体的に示す）
国語	・「東久留米市学力定着度調査」によると、「書くこと」に特に課題が見られ、平均得点率が55％未満で、全国平均も下回っている。「書くこと」の中でも、「構成を考え書く・推敲する」に課題が見られた。 ・漢字小テストの正答率の平均が75％程度で「漢字の定着」に課題が見られる。普段の学習の中でも、習った漢字を活用しながら文章を書くことに課題が見られる。	・「書くこと」は、教科書の説明文等の中の大事な言葉や一文を学級全体で確認した上で、叙述に基づく考えを一人一人が書けるようにする。また、書き方のポイントを示して、相手に伝わるよう構成を工夫しながら考え等を書けるようにする。来年度は正答率70％以上を目標とする。 ・漢字学習は、モジュール学習や家庭学習の工夫により習った漢字の定着を図り、新出漢字学習後も自ら活用していけるようにする。自主学習のときは、意欲的に取り組めるタブレット漢字学習の時間を積極的に設けるようにする。
算数	・令和５年度の「東久留米市学力定着度調査」によると、「図形」に課題が見られ、全国平均の正答率に比べ１４ポイント低くなっている。「角」の学習では、分度器を使って正確に作図をすることに課題のある児童が３０％程度見られた。 ・掛け算九九や繰り下がりの引き算が十分に定着していない児童が４０％程度おり、わり算の筆算をスムーズに計算することに課題が見られた。	・分度器やコンパスを使った作図の仕方を学習時には、初めにカードで提示し全体で確認をする。 ・保護者との連携も図りながら、掛け算九九の復習をし定着させる。わり算の筆算の仕方を忘れないよう学習の中で復習プリントに取り組む機会を多く設ける。また習熟度別の課題を用意し、児童が自分の力で考え、解いていけるよう工夫する。
社会	・単元テストでは、グラフや表などの資料から読み取れる児童が６０％程度見られた。 ・社会的事象に対する自分の考えをもち、言葉で表現することに対して苦手意識をもつ児童は、ノートやワークシートを評価すると５０％程度いる。	・授業内でグラフや表などの資料から必要な情報を読み取る活動や、読み取った内容を共有する活動を増やし、グラフの見方や読み取り方の定着を図ることで、必要な情報を読み取れる児童を８０％以上にする。 ・社会的事象に対する自分の考えを書く活動を多く取り入れたり、授業の振り返りを書いたりすることで、自分の考えをまとめられる児童を７０％以上にする。
体育	・男子はほとんどの種目で全国平均と同等の数値だった。女子は全ての種目において全国平均値を下回っていた。 ・「５０ｍ走」では、男子は３ポイント、女子は６ポイント低かった。 ・「立ち幅跳び」では、男子は２ポイント、女子は８ポイントほど低かった。	・準備運動に、走る活動を多く取り入れて、腕の振り方など体の動かし方を身に付けていく。 ・跳の運動や体つくり運動において、腕を振って両足で跳ぶ運動の機会を増やす。年間を通して準備運動の中でも取り入れる。来年度は、全国平均と同程度の数値になるようにする。